

# 第29回稲門建築会特別功労賞（殊勲）山崎義人（苗1995）東洋大学教授



## [功績と推薦理由]

集落は有史以来存在する人間居住の原点である。経済成長にともない、日本の農山漁村集落は都市市街地に包含され、あるいは廃村となり相当数減ったが、それでも数万の集落が日本には存在し、国土の地形・景観・安全・生産を保つ地域社会の核になっている。集落は都市計画法のような法的な計画制度から外れているが、建築学においては、居住原理の原点や歴史的観点から集落研究を継続してきた。今日では、人びとの居住がネットワーク化し、交通・情報ネットワークが高度に発展する中で、集落は単にその地域の居住の核という意味以上の、さらに積極的意義を帯びてきた。山崎義人君は、早稲田大学後藤研究室に提出した博士論文以来、高度流動性社会と言う概念を提起しつつ、末端の離島や山村の意義を探ってきた。ときにトカラ列島の小宝島に住み込んでフィールドワークを行った。神戸大学の21世紀COE（代表重村）の研究員に採用されてからは、過疎、集落災害、離村といった集落課題の下に潜む諸条件を解明するために、日本でめずらしく人口が膨張的に増えている離島集落を研究するために、瀬戸内海に浮かぶ家島諸島の坊勢島という漁村集落に通って、フィールドワークを行った。漁獲数が高い島だが、ここでは一家に3人も4人も子どもがいる。住宅事情を含め、どのような条件がこの子育ての島を成立させるのかを明らかにした。集落個々の問題は、国土・地域・都市の問題とリンクしていて、また社会を構成する家族の拡大ネットワーク形態がさらにそれとリンクしている。博士論文以来主張している高度流動性社会という人の動き、人の結びつきに視点を置いた考え方をもつと、集落-地域-都市-国土という地理空間において、過疎一持続一災害などの地域の深刻な課題を克服する実践的計画の種がみえてくる。山崎義人君はこれらの研究成果を社会化するために、学術論文や報告書以外、さまざまな方法を試みている。専門家や非専門家への著書を書き、イベントの実行や、ワークショップのIT的方法を開発し、地域でのパフォーマンスを行う、移動博物館を実験する、実際の町家シェアハウスを実装するなど多くのこれまでにない方法で、研究を社会化し、また学会の若手を巻き込んでいる。この十年彼の成果に対し、さまざまな賞が贈られてきた。建築学会奨励賞、都市計画学会年間優秀論文賞、建築学会論文賞教育賞の立て続けの授与の栄誉である。これはきわめて稀である。今和次郎・吉阪隆正以来早稲田大学が受け継いで来た集落研究の流れの発展系がここにあり、その方法の現代的成果でもある。早稲田建築の名を高からしめている功績に対して、稲門建築会特別功労賞（殊勲）の賞を授与するのにふさわしいと考える。

推薦者 重村力（苗1969）

## 略歴

- 1972年 鎌倉市生まれ
- 1995年 早稲田大学理工学部建築学科 卒業
- 1997年 早稲田大学大学院修士課程 修了
- 1997年 (株)地域総合計画研究所 研究員（～2000）
- 2000年 早稲田大学大学院博士後期課程（～2004 博士（工学））
- 2002年 早稲田大学理工学部総合研究センター 助手（～2004）
- 2004年 神戸大学大学院21世紀COE研究員（～2008）
- 2008年 兵庫県立大学 講師 兼 兵庫県立人と自然の博物館 研究員（～2014）
- 2008年 早稲田大学理工学部 客員講師兼任（～2015）
- 2013年 兵庫県立大学大学院准教授 兼 兵庫県立コウノトリの郷公園主任研究員（～2017）
- 2015年 早稲田大学理工学部 客員准教授兼任（～2017）
- 2017年 東洋大学国際学部国際地域学科 教授（現在に至る）

## 受賞

- 2011年 日本建築学会奨励賞
- 2020年 日本建築学会賞（論文）
- 2021年 日本都市計画学会年間優秀論文賞
- 2023年 日本建築学会論文賞 査読功労者表彰
- 2024年 日本建築学会教育賞（教育貢献）

## 主な社会活動

- 2006年 日本建築学会農村計画委員会・委員
- 2009年 日本都市計画学会関西支部20周年委員会 次世代の関西WG・代表 日本都市計画学会関西支部・幹事
- 2011年 日本建築学会農村計画委員会集落居住小委員会・幹事
- 2012年 日本建築学会奨励賞選考委員会・委員 日本都市計画学会学術委員会・委員
- 2013年 早稲田まちづくりシンポジウム実行委員会・委員
- 2014年 日本建築学会卒業論文等顕彰事業委員会・委員
- 2016年 日本建築学会農村計画委員会・幹事
- 2017年 日本建築学会著作賞選考委員会・委員
- 2021年 日本建築学会賞選考委員会・委員
- 2024年 日本建築学会農村計画委員会・委員 早稲田まちづくりシンポジウム実行委員会・委員
- 2025年 日本建築学会賞選考委員会・委員 その他学会委員会・NPOなど多数



人口増加してきた坊勢島の様子



小田原の「なりわい交流館」



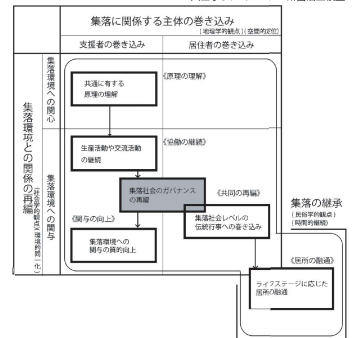
書影 いま、都市をつくる仕事



書影 リジリエント・シティ



八王子まちづくりS-1720 断面土構型



日本建築学会賞論文の結論 山崎義人（2020）



日本建築学会教育賞のテキスト 山崎義人他（2021）



書影 住み継がれる集落をつくる



GISを用いたシャレットワークショップの実践



日本初移動博物館車「ゆめはく号」



古民家シェアスペース「コトボキ荘」の実践



日本建築学会奨励賞論文の図表 山崎義人他（2007）

## おもな業績リスト

- 1 おもな調査研究
  - 「人口増加を続けてきた離島の解明＝坊勢島」2004-2008 学会論文集
  - 「ジャワ島中部地震の被災集落の再建プロセス研究」2009 学会論文集（2009日本建築学会奨励賞）
  - 「国際シャレットに用いるGISシステムの開発」2006
  - 「高流動性社会を背景とした集落持続に向けた社会関係の再編の研究」（2020日本建築学会賞論文賞）
  - 「北海道天塩郡豊富町における湯治者と地域社会の関係の段階的変容」（2021都市計画学会年間優秀論文賞）
- 2 おもな著述
  - 「いま、都市をつくる仕事」 共著代表 学芸出版社、2011年
  - 「リジリエント・シティ」 訳著代表 クリエイツかもがわ、2014年
  - 「住み継がれる集落をつくる」共著代表 学芸出版社、2017年
  - 「はじめてのまちづくり学」 共著代表 学芸出版社、2021年（2024日本建築学会教育賞）

## 3 おもなまちづくり提案活動

- 1) 小田原まちづくり、2000年-2002年
- 2) 吉阪隆正展「頭と手」2004年
- 3) 神戸長田GISを用いた国際シャレットワークショップ、2006年
- 4) 日本初の移動博物館車 兵庫「ゆめはく号」設置、2012年
- 5) シェアスペース豊富「コトボキ荘」創設、2016年